

和田町ブランド誕生となるか?! 新事業で地域ブランド力を高める

— 第51回目の協議会の概要 —

第51回協議会が4月14日(水)に開催されました。今回は、地域の方々に加えて、スタジオ★へそちくや昭和建設(株)、(社)生涯学習研究所の方、横浜国大の教員・学生の計32名の参加がありました。

協議会では、「わだまちミツバチ大作戦」及び国大生のプロジェクトの進行状況の報告のほか、ファルク(食べ物依存症回復施設)の活動や音一平さんのライブのお知らせがありました。また、(社)生涯学習研究所による地域の街興し事業として、マグロ丼をワンコインで提供する店舗を期間限定で和田町に出店したいという案も出されました。



ついに…!! ミツバチ上陸



期待と不安の声の中、5月1日に約2万匹のミツバチが工藤ビルの屋上にやってきました。

この事業は、地域住民が一体となり、自然のありがたみに改めて感謝し、密源の拡大を推進することを目的として始められました。事業を通して、ミツバチの受粉による緑地の活性化や、蜜を利用した商品の開発による地元ブランドの推進などが期待できます。

既に同様の事業を試みている大倉山養蜂プロジェクトは、先月9日に初の採蜜を行いました。設置から10日しか経っていないにもかかわらず、約3万匹のミツバチによって40もの蜜が採れました!

和田町でも今月中に採蜜が可能と思われます。蜜の味は、季節によって蜜源である花が異なるため、さまざまな風味が楽しめることが期待できます。採れた蜜が商店の力によって美味しいお菓子などに加工され、お店に並ぶ日が楽しみです。

また、プロジェクトの最新情報は、昭和建設(株)ホームページの「社長のブログ」にて知ることができます♪

ミツバチは、性格は
おとなしく、何もしなければ刺すこと
のない生き物です。

→ 巣箱の準備中:



新鮮な横浜産の野菜が…

横浜市は農業が大変盛んな地域ですが、みなさんご存知ですか? 生産されている作物はいろいろありますが、特に小松菜の生産量は市町村別で全国2位です。

国大の「和田町地産地消プロジェクト」では、現在、横浜市内で生産された野菜を和田町商店街の青果店で販売する事業を企画中です。

新鮮な横浜産の野菜を楽しめるようにすることで、商店街をより魅力的にすることを目標としています。

既に、販売の場として10店舗以上が予定されており、現在は、流通や価格の問題の解決に取り組んでいるところです。

地元の新鮮な野菜が手軽に手に入る日が楽しみです。



旧町内会館が変身?!

今年度新たに国大生が立ち上げた「ワダヨコプロジェクト」では、旧町内会館をリフォームし、毎週土日の昼～夕方に、地域住民や国大生による子供との勉強会や、展示・イベントなどを開催することを考えています。

地域のみなさんと学生が同じ時間を共有できる空間が和田町に誕生するのも間近ですね。

— 編集後記 —

最近、街の活性化のキーワードとして、『地域ブランド』という言葉をよく耳にします。

“養蜂” “新鮮野菜” “地元と大学の連携” など、和田町ブランドをたくさん生み出し、外部にアピールしていきたいですね (^)b

和田べんプロジェクト

